

地域に広がる、外国人市民との「共生」を進める取り組み

市内には、働くことを目的とするほかにも、結婚や留学など、さまざまな理由や目的を持って暮らしている大勢の外国人市民がいます。異なる文化や風俗、習慣を持つ人たちがこのまちで快適に生活していけるように、また、私たちが外国人市民の皆さんと安心して一緒に暮らしていくために、「共生」の輪を広げる活動に取り組んでいる皆さんを紹介します。



「国際交流」の言葉が
より身近に感じられるまちに
公益社団法人上越国際交流協会
理事長 清水 信博さん
問合せ：(公社)上越国際交流協会
(025)527-3615



▲窓口での相談対応



▲生活日本語教室の様子



上越国際交流協会HP

上越国際交流協会（J-OIN）は、市民が主体となって多文化共生と国際理解、海外諸都市との友好親善を深めるため平成8年3月に設立し、今年で24年目を迎えました。

J-OINはこれまで、市と連携して外国人相談窓口の開設や生活に必要な日本語を学ぶ教室の開催、医療通訳の派遣など、外国人の皆さんが安心してこの地域で暮らしていくための支援のほか、小・中学生と留学生や外国人教師が参加するキャンプの開催など、交流を通じて互いの理解を深める事業にも取り組んできました。また、上越教育大学と連携し、外国人の子どもたちのための学習支

援も行っています。

近年は、上越市にもフィリピンやベトナム、ミャンマーなどから「働き手」として来られる外国人が増え、深まる機会も増えていきます。教室では、彼らの国の文化や習慣について教わることも多く、お互いに理解を深める機会になっています。

働き手として上越に来てくださる皆さんは、来日前に一定以上の日本語教育を受けていただきますので、簡単な日本語を話せる人がほとんどです。スピーチなどで見掛けたら、気軽に声を掛けてみてください。そういう小さなコミュニケーションも含めて「上

町内で暮らす技能実習生と、町内会ぐるみで交流を重ねる
頸城区上吉町内会
会長 渡邊 吉造さん

上吉町内会では、十数年前に近くの事業所に勤める外国人技能実習生が町内のアパートで暮らし始めました。町内会では、最初から「積極的に交流していこう」という気持ちで

あったわけではありませんでした。交流のきっかけは、ある日、畑作業をしていた私の妻にベトナム人の女性が声を掛けてきたことです。野菜作りに興味があった彼女と一緒に畑作業をしたり、料理をお裾分けしあったりして、交流が広がっていきました。外国人の皆さんは、道で言えば元気にあいさつをしてくれますし、ゴミ出しのトラブルもありません。

毎年8月には納涼会を開催しており、ベトナム人とカンボジア人の住民も3年前から参加してくれています。昨年は、カンボジア人の皆さんが母国の歌や踊りで盛り上げてくれました。

あいさつや祭りへの呼びかけなど 交流を通して町内の仲間に

上吉町内会 伊東さん、渡邊さん、山川さん(左から)



▲納涼会で楽しむカンボジアの皆さん



▲9月には町内会館で国勢調査の説明会を開催

また、9月には市や外国人の皆さんが勤める事業所からも協力してもらい、町内会館で国勢調査の説明会を開きました。カンボジア人が使うクメール語の解説書を配り、説明しながら記入してもらいました。これまでの交流を通じて、外国人の皆さんにも「地域に溶け込みたい」という気持ちがあることが分かりました。お互いに楽しめることから交流を始め、防災訓練など、町内の一員として、命を守る行動も一緒に取り組みたいと考えています。同じまちに暮らす者同士、災害が起きたときなどにもコミュニケーションが取れるように、いろいろな形で交流を続けて行きたいですね。



上吉町内会HP

同じ市民として、誰もが尊重し合える『多文化共生のまち』を目指して

外国人の皆さんが、言葉や習慣の違いから不安や不満を感じることなく、このまちで快適に暮らしていくためには、地域全体で交流を深め、同じ市民として心を通わせていくことが大切です。

さらに、医療や福祉、災害対策、教育など、暮らしの上で生じるさまざまな課題について、町内会、行政、企業や市民団体などがそれぞれの立場で、

外国人と日本人と一緒に暮らしていくための環境づくりも必要になります。

今回の特集を通じて、外国人市民の皆さんのことを今まで以上に身近に感じ、

「交流してみたい」、「課題についても考えてみよう」と思っただけならば幸いです。

外国人にも日本人にも住みよい『多文化共生のまち』づくりに向け、みんなで取り組んでいきましょう。